平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- Ⅱ マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- Ⅲ スポーツを通じたインクルーシブな社会(共生社会)の構築
- Ⅳ 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【札幌市】

1 実践テーマ	[]
2 実施対象者	札幌市立藤の沢小学校
	第4学年 25名
3 展開の形式	(1)学校における活動
	① 教科名(総合的な学習の時間)
	②行事名()
	③ その他 ()
	(2) 地域における活動
	① イベント名()
	② その他 ()
4 目標	・オリンピックの歴史や競技種目について理解を深めることができ
(ねらい)	る。 ・札幌でオリンピックがあったことを知り、オリンピックへの興味
	- 作品ではプラビックがあったことを知り、オリフピックへの興味 - と関心を高めることができる。
5 取組内容	○指導計画【8時間扱い】
O 42/101-30	オリンピックについて知ってることを交流しよう(1/8)
	・オリンピックの歴史や競技種目、札幌オリンピックについて
	調べよう (2/8)
	オリンピックミュージアムに行ってオリンピックについて
	学ぼう (3~6/8)
	オリンピックについてまとめよう(7~8/8)
	○取組の様子
	オリンピックミュージアム
	の目学では バイアスロン倍技





オリンヒックミューシアムの見学では、バイアスロン競技のオリンピアンである蛯沢大輔さんの講演を聴きました。蛯沢さんは、子どもたちに「夢をもつことの大切さ」を語っててでいました。「夢に向かって頑張ったことは、後の人生に役立つ」「我慢の時期を乗り越えることが、成功への秘訣である」「皆さんは、ダイヤの原石である」などの素敵なメッセージを届けてくださいました。



蛯沢さんの講演の後、子どもたちは学芸員さんから札幌オリンピックについて説明を受けた。競技に関する展示物や写真、年表などを通して子どもたちは多くのことを学ぶことができた。館内にある競技シミュレーターでの体験も貴重な経験となった。帰校後、学習した内容を新聞にまとめて学級内で交流を行った。オリンピックについて新たな発見が多く発表された。

6 主な成果

- 本校ではリュージュ競技の先輩オリンピアンコーナーが常設されていてオリンピックへの関心は高いが、今回の学習を通してオリンピックへの興味、関心と愛校心を更に高めることができた。
- オリンピアンの講演を聴くことによって、改めて夢に向かって努力をする大切さを学ぶことができた。
- オリンピックの歴史や競技を調べることを通して、調べたい内容 を明確にし(課題を探究する力)、目的に応じてまとめ表現する 力を付けることができた。

7 実践において工夫した点

本校では、3年生の時に先輩オリンピアンからリュージュ滑走体減の指導とリュージュ協議についての授業を行っていただいているので、今回の学習では、学習内容が少しでも広がるように冬季オリンピックの歴史や競技を課題に設定した。

8 主な課題等

- 本校はオリンピックミュージアムへの移動時間が多くかかるため 講演後の見学時間に余裕がないように感じた。オリンピックミュージアムでの活動時間を延長することで、よりじっくりと活動に 取り組むことができる。昼食をとるスペースに問題がありますが、昼食後に自由見学ができるような時程が組めるとよい。
- 子どもたちに冬季オリンピックへの興味をどのようにもたせると より深く活動に取り組もうとするのかを今後考えていく。

9 今後の取組 について

- ・課題探究的な学習がより充実できるように他の教科・領域と関連 を整理していくことによって、より意義のある学習とする。
- ・3年生で「リュージュ体験・オリンピアンの先輩授業」(課題2) を行ってきているので、次年度は総合的な学習の時間のカリキュ ラムを見直して、3年生で「オリンピックミュージアムを活用し た学習」(課題3)を行うことができるようにする。